

報道関係の皆さまへ

2022年12月12日
入試広報部

フィリピンの学生が日本の町並み保存技術学ぶため18日に来日 ——さくらサイエンスプログラム

世界の優れた人材を日本に招いて日本の最先端の科学技術や文化に触れてもらう「さくらサイエンスプログラム」(科学技術振興機構主催)で、昨年度に続いて岡山理科大学が採択され、フィリピン・マプア大学の建築系の教員と学生が12月18日に来日。岡山市の西大寺・五福通りなどを事例として日本の町並み保存の手法などを学ぶとともに、理大の教員・学生と交流します。

交流テーマは「伝統木造建築のフィールド調査における復原手法を中心とする技術体験～日比共同比較研究に向けて～」。来日するのは理大と交流協定を結んでいるマプア大の教員2人と学生6人。12月18日に来日し、12月24日まで滞在。重要伝統的建造物群保存地区選定に向けた取り組みを進めている西大寺・五福通りを事例として理大の学生と一緒に学習します。主な日程は以下の通りです。

- 12月18日(日) 関西国際空港着→岡山入り
- 19日(月) 平野博之学長表敬訪問(12:30)
岡山後楽園の伝統建築・岡山城視察
- 20日(火) 理大建築歴史文化研究センター長、江面嗣人教授講義
工学部建築学科、八百板季穂准教授講義
- 21日(水) 吉備津神社視察
倉敷美観地区視察
- 22日(木) 岡山市西大寺で実測調査
- 23日(金) 成果発表会
- 24日(土) 関西国際空港から帰国

科学技術振興機構によれば、さくらサイエンスプログラムは今年度、大学、高等専門学校などから84件の申請があり、「さくら招へいプログラム」が理大を含めて51件、「さくらオンラインプログラム」は9件が採択されました。

本資料の問い合わせ先：八百板研究室(086-256-9832) yaota@ous.ac.jp